



大阪の元気!ものづくり企業

「大阪ものづくり優良企業賞 2025」受賞企業への 豊田政男審査委員長メッセージ

『大阪ものづくり優良企業賞』は、今回で17回目を迎えることができました。今年度は、制度を一部リニューアルし複数回の受賞が可能になったことから、今回は過去に受賞歴がある企業を含めた応募企業の中から、審査の結果、49社を「優良企業賞」に選定しました。

また、書面審査で特に評価の高かった企業を対象に、企業訪問とプレゼンテーションによる最終審査を行い、「最優秀企業賞」2社、「夢・未来・ORIST 賞（(地独)大阪産業技術研究所理事長賞）」1社、及び「審査委員特別賞」2社を選定しました。

最終審査においては、金属製品製造業やはん用機械器具製造業等の企業が表彰対象候補としてノミネートされ、その中から審査委員全員の合意のもと、最終的に評価水準が拮抗する優れた2社を「最優秀企業賞」として選定しました。

1社は、農業機械や建設機械等で用いられる高精度で複雑なエンジン部品等の製造を主力としつつ、自動化装置の設計開発・製造により医療・電子等の新分野への進出にも積極的に取り組む企業です。

もう1社は、水道配水管からの分水栓等給水装置を製造している企業で、省人化・合理化を推進しながらライフラインを支える製品を製造するとともに、遠隔操作でバルブの開閉ができる自動開閉栓等の新製品やサービスの開発を意欲的に進めています。

また、技術の将来性を評価する「夢・未来・ORIST 賞」には、材料の素材・形状を問わず高精度切削加工を可能とし、分野にとらわれない多様な部品を製造するとともに、人材育成や技術継承にも積極的に取り組む企業1社を選定しました。

さらに、高いプレス加工技術を有し、単体でゆるみ止め機能を持つナット等機能性締結部品を開発・製造している企業と、多様な素材を用い、幅広い分野で顧客のニーズに応じたプラスチック段ボールを開発・製造している企業の2社を「審査委員特別賞」に選定しました。

今回の審査を通じて、近年エネルギーや原材料価格の高騰など厳しい経営環境が続いており、また、人材確保、DX、脱炭素などの様々な課題に直面する中、これまでの経験で培った高い技術の応用や創意工夫により新しい展開に挑む企業の姿勢を見て、大阪のものづくり企業の持つ卓越した技術力とそれを利用して新たな展望を切り開く力強い姿を感じることができました。

17回目を迎えた当顕彰事業の受賞企業数は延べ1,054社となり、毎年多くの企業が選定されていることは、大阪府内に優秀で意欲の高い中小企業が数多く存在し活躍していることの証でもあり、本賞の審査の意義を改めて感じることができました。

今回受賞され各企業の皆さまには、大阪を代表するものづくり中小企業である「匠企業」として、その持てる技術力や企業力をより一層発揮され、更に活躍されることを確信するとともに、心より祝意と敬意を表します。

大阪中小企業顕彰事業審査委員会 審査委員長 豊田 政男
(大阪大学名誉教授)